

御挨拶

校長 土居 正明

九州北部を襲った豪雨により被災された皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。奈良県も平成23年の台風12号による豪雨により大きな被害を経験しました。この時、全国からボランティアなど様々な支援を受け、人のつながりの暖かさに心を熱くしました。

奈良北高等学校後援会会員の皆様方には、日頃より本校の教育活動に一方ならぬ御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。本校校舎の耐震工事も、昨年度ようやく終えることができ、少しくすんでいた校舎の外壁も白亜に輝いて、面目を施しました。その中でも、生徒昇降口の靴箱が、傷みも激しく大変古びていたものを10期生と11期生の卒業記念品費と北高後援会の皆様のお力添えを合わせまして新しい靴箱を購入していただき、周辺整備も含めて、生徒が校舎に入る玄関が見違えるように清々くなりました。ありがとうございました。

今年の4月に本校に着任させていただきました。まず、4月1日の夜桜コンサートに心奮わされました。先生方の授業の音が廊下に響き、あちこちで昼休みのランチを開く姿、放課後は部活動の大きなかけ声や楽器の音に、いきいきとした学舎を実感しました。5月の中間考査に必死で取り組む生徒の姿を身近に感じ、6月にはインターハイや近畿大会を目指し、あるいは総合文化祭での発表に、生徒たちが躍動していました。勝っても負けても学ぶことばかりの部活動ですが、結果の一部を紹介します。インターハイに出場する自転車競技部、近畿大会に出場する水泳部・剣道部・卓球部・弓道部・ソフトテニス部、全国高等学校総合文化祭にはコーラス部・放送部・美術部が、学校の、あるいは奈良県の名前を背負って晴れの舞台に出場することとなりました。7月には期末考査に全力で取り組み、夏期休業を迎えて、それぞれの学年としてすべきことに精一杯の努力を積んでくれていることと信じています。

ニュースでは、弱冠14歳の中学生棋士である藤井四段の快挙が報じられ、自分のことのように誇らしくなりました。SFアニメではなく、現実社会の中でAI（人工知能）が人に指示する時代がすぐそこまできているといわれます。若い世代の羽ばたきを応援できることに喜びを感じながら、新しい時代を任せる人材が奈良北高から育ってくれることを祈っています。

(北高後援会だより夏号)